

アフリカ経済は今どうなっているか

人口増加を背景に、アフリカの消費財市場の規模は驚異的な膨張を続けている。
日本企業はどこまで入り込めているのか。

日本貿易新興機構(ジェトロ) アジア経済研究所

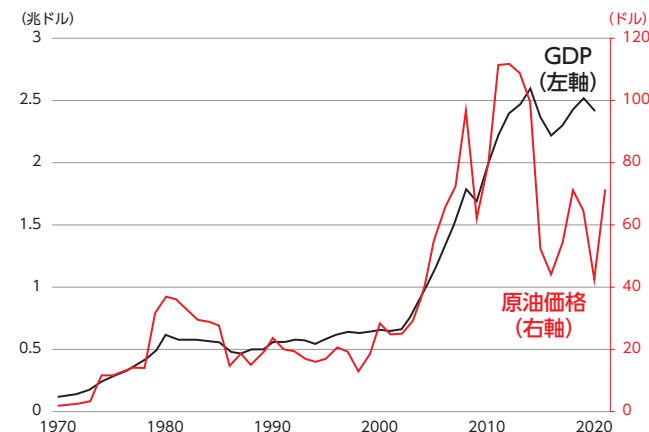
新領域研究センター 上席主任調査研究員 **平野克己**

現下の焦点は債務危機

アフリカ経済に関する喫緊の関心は債務問題に集まっている。今世紀初頭の資源ブーム時にアフリカ経済は中国をものぐ高成長を呈し、地域総生産(GDP合計)はおよそ4倍に増えたが(図1)、その中で各国政府はインフラ建設を中心に多額の資金を借り入れた。その返済期が訪れ、国によっては返済不能に陥ったのである。この状況は1980年代に似ているが、当時はODAはじめ公的債務がほとんどだったのに対し、今回は民間債務と中国からの借入れが大きい。資源ブームの終了とともにアフリカの高成長も止まったから、債務救済以外解決の方途はない。世紀の変わり目には公的債務の帳消しが行われたが(重債務貧困国スキーム)、今回は民間債務の扱いと中国の対応が鍵を握っている。

アフリカ諸国のGDPは原油など資源価格に連動する(図1)。非先進国はおおむねそうで、例外は製造業輸出を経済成長の原動力にする東アジアだけだ。非先進国の中でも特にアフリカはGDPと資源価格との相関が強い。新型コロナ禍やウクライナ戦争といった不測の事態があったとはいえ、債務危機は十分予測し得たといえる。中国も対アフリカ融資を引き締めている

図1. アフリカ諸国のGDP合計と原油価格



(出所) United Nations National Account, UNCTADSTAT より作成

るから、今後、政府の資金調達滞り、インフラ案件に大きな動きはなくなるだろう。

となれば、民間投資の動向がますます重要になってくる。その点で、コロナ禍の最中であってもアフリカのスタートアップに対する投資額が増加していることは心強いし、国際ビジネスがアフリカをどのように見ているかを示唆している。

マクロ数値よりミクロ経済が重要

通常アフリカ経済については国別のGDPをベースに、経済成長率やインフレ率が論じられるが、こうしたマクロ経済指標は本来政府のための政策指標だ。だが、アフリカ諸政府の経済